

- 柳沢公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
- 田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

- 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
- 保谷駅前公民館 東町3-14-30 TEL 421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

## アイススレッジホッケー選手 高橋和廣さんにエールを

2010年、バンクーバーパラリンピックの「アイススレッジホッケー」で、日本代表は銀メダルに輝きました。今回は、日本代表選手である、西東京市在住の市職員高橋和廣さんに、パラリンピックの思い出と今後の抱負を伺いました。

### 一番思い出深い試合は？

高橋さんは、優勝候補の地元カナダと対戦した準決勝戦が、一番印象深いと語ります。会場のお客さんの3分の2がカナダを応援する中、監督が「何万回負けてもいいんだ。ただこの1回だけ勝てばいい」と言ってお手を送り出してくれました。あの時は、何もかもがうまくいって、3対1で開催国カナダを下すことができました。

### 銀メダルを獲得できた勝因は？

トリノパラリンピックの時は、1か月前から事前合宿をしたのが裏目に出て、合宿中にコンデ



光り輝くバンクーバーパラリンピック  
銀メダルを胸に力強く語る

選手各人の体格に

### ソチパラリンピックに向けて

3年後にロシアのソチで開催されるパラリンピックに出場できるのは、上位8か国です。まずは、4か月後にノルウェーで開催される今シーズンの世界選手権で結果を残すべく、日本代表選手は、所属チームで練習する他に、月に一度長野県で行う強化合宿で、汗を流しています。

### 普段の練習は、いつどこで？

高橋さんは、アイススレッジのクラブチーム「東京アイスパインズ」に所属して、毎週土曜

日の深夜または早朝に、東大和スケートセンターで練習しています。深夜や早朝に練習するのは、リンクの利用料金を抑えるため。使用する用具も、選手各人の体格に

合わせてオーダーメイドするために、高額な出費となり、選手の負担が大きいところが悩みます。

### アスリートならではの苦労とは？

日本ドーピング機構（JADA）に登録している高橋さんは、日々のスケジュールをJADAに報告する義務を負うほか、突然検査員が自宅を訪ねてドーピング検査を要求しても、応じなくてはなりません。この検査を2回拒否すると、ドーピング違反とみなされ、2年間の出場停止になってしまいます。

高橋さんもこれまで2回の抜き打ち検査を受け、パスしてきましたが、不用意に摂取したもので陽性反応が出るとは大変です。そのため、体調を崩して薬を飲むときは、ドーピング専門医のチームドクターに確認して、どの薬なら安全か指示を仰いでいます。また、日ごろコーヒーの多飲は避けるなど、食生活にも気を配っています。

### 競技を始めたきっかけは？

高校・大学とアイスホッケーの選手として活躍した高橋さんは、21歳の時にスノーボードの事故で脊椎を損傷し、下肢障がいとなりました。なぜ生きていくの？と思った時期もありましたが、リハビリ中からアイススレッジホッケーに誘われ、この



激突を繰り返しバックをゴールに！

世界に入りました。

学生時代のアイスホッケー仲間からは「自分たちの中で、一番輝いているね」と言われます。「アイスホッケーを続けていても、今の日本の実力ではメダルの獲得は厳しい状況です。怪我をしていなければ味わうことのない、貴重な体験ができました」。

パラリンピックの通訳をしていた奥様を、猛アタックの末に射止めて、結婚したのは3年前。高橋さんは障がい乗り越え、充実した毎日を送っています。

### 今後の目標・抱負は？

日本代表選手の平均年齢は他国に比べ高く、53歳のゴールキーパーを筆頭に、40歳代の選手もいます。34歳の高橋さんは、代表チーム中、3番目に若いのだとか。

今後は、自分も競技を続けながら若手を育て、チームの世代交代を図りたいと高橋さんは語ります。

「アイススレッジはリハビリのスポーツじゃなくて、健常者も女性も参加できるスポーツです」。まだ世間あまり認知されていませんが、メディアに取り上げられることで、広く世間に浸透すればと願っています。

## サークル訪問

# クラリネットの音色で誘われて「クラクラクラ」

「セカンドとサードは、テンポをあわせて〜♪」と鈴木先生。日曜日の午後、柳沢公民館の一室で「上を向いて歩こう」を演奏していたのは、クラリネットアンサンブルのサークル「クラクラット」です。

平成19年に多摩六都が募集した「中高生のための初歩からの管楽器アンサンブル講習」に参加した、クラリネット部門のメンバーが立ち上げたサークルで、現在の会員は8人。ピアノや合唱、その他の楽器経験者はいますが、クラリネットについては初心者ばかりです。

最初は音を出すのも大変で、おもいきり息を吹き込むと酸欠でクラクラっ…。実はこのエピソードと楽器名から、ユニークで楽しいサークル名が誕生しました。

練習も楽しく和やかな雰囲気です。笑いが絶えません。同時に「演奏会」に向けて練習する姿は、真剣そのものです。

会員の皆さんに「クラクラット」の魅力を伺いました。鈴木先生が演奏するクラリネットの音色がとてもキレイで、



いつかあんな音が出せるようになりたいと、がんばっています。「居心地が良くて、仲間がいるいる教えてくれるのも長続きのヒケツです」

「皆であわせられるのがアンサンブルの魅力。音がバッチリあつたときの快感は最高ですね」「この年齢でこんなに努力する自分をほめてあげたい。クラリネットに出会ったおかげで、人生に楽しみが増えました。あと40年はがんばりたい！」

「発表は励みになりますね。老人福祉施設でも演奏しています。定年後の趣味や社会貢献として音楽を届けたい」と語る皆さんの表情は明るく、生き生きと輝いています。

歯の治療中で見学をしていた藤原さんは「上を向いて歩こう」は、いつか演奏したいと思っていた曲。2か月も吹いていないとストレスがたまっちゃってねえ」と言っています。

来年2月11日は柳沢公民館の「ピアノコンサート」でも演奏します。

クラクラット独自の活動だけでなく、多摩六都で活動している吹奏楽バンド「ウインズ・パストラル」のクラリネット部門としても活躍するメンバーたち。1月21日にルネ小平で行う定期演奏会にも参加します。これからも、地域に楽しい音楽の風を送り続けます。

只今、演奏仲間を募集中！  
連絡先 藤原 ☎478・6840